

総合的芸術祭の準備状況等について

本区における文化芸術活動の蓄積を背景に、地域力を活かした「総合的芸術祭」（以下「芸術祭」という。）を新たに立ち上げ、令和 8 年秋の開催に向けた準備を進めている。

区では今年度、芸術祭の基本構想及び実行委員会の組織体制の検討、芸術祭の名称案等の検討を含むコンセプトワーク、会場のリストアップなどを行うとともに、区内の活動者等へのヒアリングを実施し、情報収集と関係構築を図っている。また、本年 8 月に開催した「すみだタウンミーティング」では、区内の活動団体や個人の活動者を含む区民の出席により、芸術祭に向けた夢や想いを共有した。

今後は、実行委員会及び事務局の立上げ準備、広報計画の策定、作品公募（公募要項、公募審査員など）、協力企業・団体との連携等について検討していく。

1 実施の背景及び目的

(1) 実施の背景

区では昭和期から文化芸術を拓ける施策を展開し、昭和 63 年 3 月の「墨田音楽都市構想」の発表、平成 9 年 10 月の「すみだトリフォニーホール」の開館に続き、平成 24 年 9 月に「墨田区文化芸術振興基本条例」を施行し、平成 25 年 6 月に「墨田区文化芸術の振興に関する基本方針」の策定を行い、平成 28 年 11 月の「すみだ北斎美術館」の開館と、それに合わせてスタートしたアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」（通称：すみゆめ）など、文化芸術活動の蓄積が進んでいる。これらを背景に、区内の地域資源、文化資源を活かした芸術祭を新たに立ち上げる。

(2) 実施目的

文化芸術が持つ「人と人をつなげ連携させる力」を、地域課題を解決する力（＝地域力）の源泉ととらえ、芸術祭開催を通じ「すみだ」に対する区民の「誇り」と「愛着」を育み、「地域力」の向上を図っていく。あわせて、芸術祭の実施により外部の評価を獲得し、区民のシビックプライドを高めることで、「暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたいまち」を実現する。

また、これまでに蓄積した区内の文化芸術資源を活かして実施する芸術祭を、区の文化芸術活動の集大成とするとともに、表現活動を通じた諸課題の総合的な解決に向けたアプローチを行い、「魅力や活力のある地域社会の実現」を目指す。

2 実施概要（案）

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 名称・コンセプトワード | 検討中 |
| (2) 会期 | 令和 8 年 9 月～12 月（予定） |
| (3) 会場 | 区内全域の公共施設、民間施設、公園等 |
| (4) 運営方式 | 実行委員会方式による運営 |
| (5) 企画内容 | 区内の地域資源、文化資源を活かした各種企画（予定） |

3 準備スケジュール（案）

- | | |
|--------------------------|----------|
| (1) 実行委員会設立 | 令和 6 年度末 |
| (2) 作品公募、プレス発表、機運醸成イベント等 | 令和 7 年度 |
| (3) 作品制作、告知強化、芸術祭本番 | 令和 8 年度 |

4 事業規模

他都市における芸術祭の事業規模を参考にして、具体的な事業規模や内容について、今後、実行委員会で検討する。

周遊パスポート販売などによる事業収入のほか、公的な助成金等の活用や企業等の協賛・協力の募集など、様々な資金調達の方法を検討するほか、財源として文化観光基金からの繰入を想定している。

他都市における芸術祭の総事業費

芸術祭名称	総事業費
札幌国際芸術祭 2017	約 6 億円
あいちトリエンナーレ 2019	約 13 億円
ヨコハマトリエンナーレ 2020	約 10.4 億円
さいたま国際芸術祭 2020	約 5.9 億円
房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+	約 6 億円
瀬戸内国際芸術祭 2022	約 12 億円
大地の芸術祭 2022	約 6 億円